

3749

法道第一之目錄



相國寺

大西の寺

建仁寺

室町寺

名山

東山

大谷

東山

立本寺

今川

廣義寺

西山

大徳寺

比叡の寺

妙心寺

寺のありとあり

秋如堂

水戸

仁和寺

西の寺

新住吉

依圓寺

実相寺

上野

妙心寺

日

黄檗山

六ヶ所

元三大師

比叡山

妙泉寺

松ヶ崎

法道第一



後進歩二

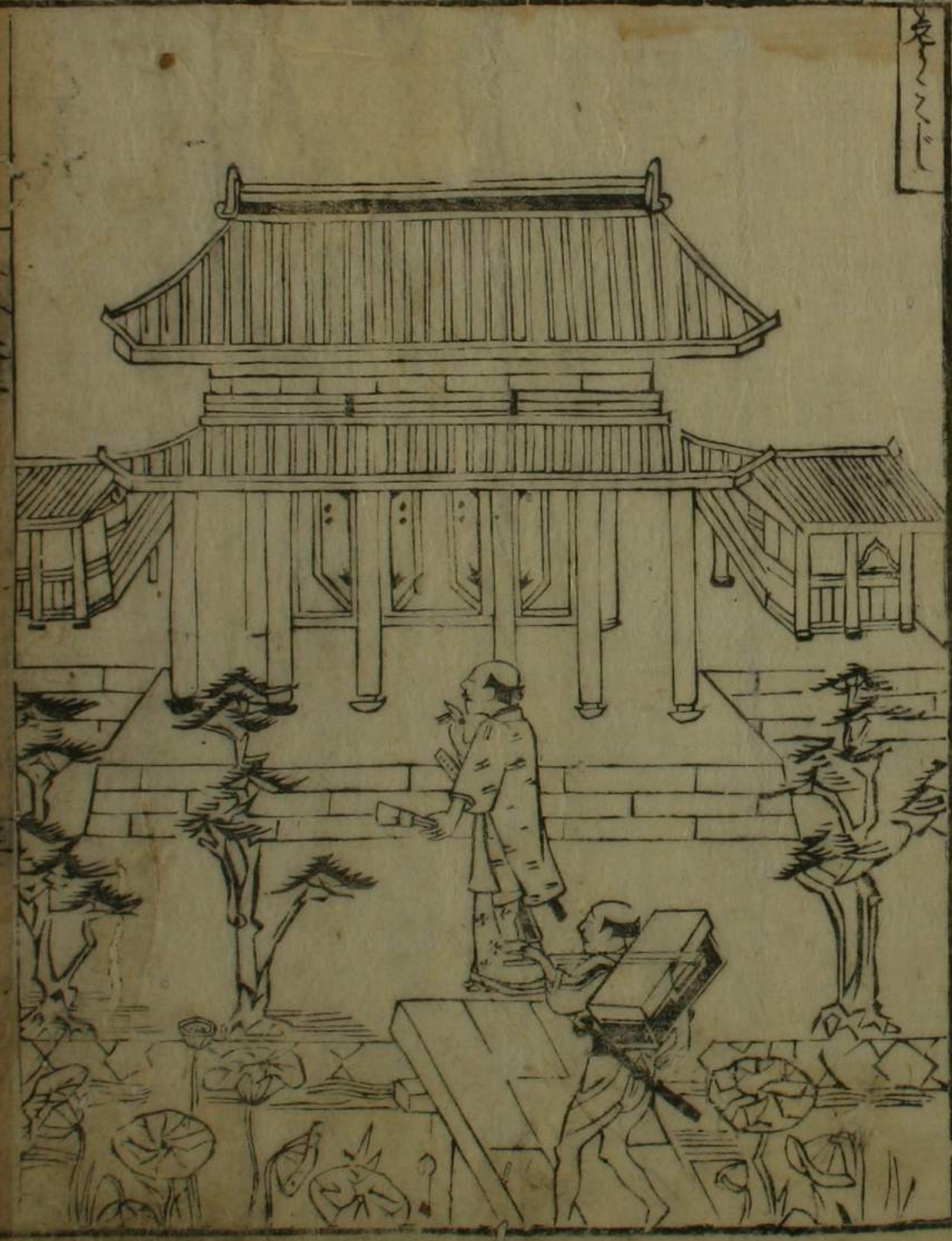
相國寺

元年山お國寺たかみかたお軍三代義満たかみかた建ちよ
 て善慈お師と物結乃ふあり。ひくし南の傍
 横川よ人の同けは。本もとは目乃字ハくどうと作
 らる。とより。横川よこがわ言ことり。蘇そもまのも。とくは是こゝに
 ふ字しうまはまの音ねかきくさる。とくはこれ。ふ
 そむある。児こ相あおさ乃相あの字たる物とていこれ。と
 し。とくまふよりあり。とあん横川よこがわよか。とくは
 失ハ紙しとくもある事あり。源げん山さん子し結むすとくまの
 り書かてりお工こうとくまの音ねあつ字とてきり。

持子のそまぐり刃ふ人ふあ敷りしにあらあしんは
 戸乃江の字也といひたる。海よりはさうそくあがり
 とくくもどらあつらと

ひさみ様や万年山の籠かむ郵
 一室のつむぬる亭のま流ばあはわり。那はは
 乃よにもひさあな八月廿とふがけて中らる
 あり。又新書さうふうも中書さああり是いふ所
 海乃のめさうさあかのか電流も中流さあ

幸くくし



建仁寺

東山建仁寺 榮華西にありて 石室とてなるを
力とてとらねど かつたきとより けり
榮華とてとらねど 人妻もつて けり
をとてとらねど 入つて けり
交天あり

月乃細らねとつとや丸一夫

又南の門ありありの 送野の陽あり
乃ふと終い なるに 乃日乃終
とらねとつとや丸一夫
まのまのふと終い なるに 乃日乃終

あはれはねとつとや丸一夫
まのまのふと終い なるに 乃日乃終
あはれはねとつとや丸一夫
まのまのふと終い なるに 乃日乃終

ついでに 乃日乃終
あはれはねとつとや丸一夫
まのまのふと終い なるに 乃日乃終

乃^もあ^らわ^るる^ふ。率^すに^た。終^はわ^るる^に。終^はつ^けら^るて
あり^まら^ぬ。あ^らわ^るる^に。世^よふ^ぐく^ちと^あり^ます。あ^らわ^るる^に
う^りの^格骨^あら^んと^かつ^あら^んと^いふ^あら^んと^いふ^あら^んと
—あ^らわ^るる^に。骨^あら^んと^いふ^あら^んと^いふ^あら^んと
つ^て。あ^らわ^るる^に。世^よふ^ぐく^ちと^あり^ます。あ^らわ^るる^に
ゆ^り。あ^らわ^るる^に。世^よふ^ぐく^ちと^あり^ます。あ^らわ^るる^に
王^の上^は。仲^尼曰^く。始^作。補^者。其^を。後^卒。と
行^はる^る。あ^らわ^るる^に。世^よふ^ぐく^ちと^あり^ます。あ^らわ^るる^に
後^は。あ^らわ^るる^に。世^よふ^ぐく^ちと^あり^ます。あ^らわ^るる^に
ゆ^り。あ^らわ^るる^に。世^よふ^ぐく^ちと^あり^ます。あ^らわ^るる^に
あり^ます。あ^らわ^るる^に。世^よふ^ぐく^ちと^あり^ます。あ^らわ^るる^に

終^はつ^けら^るて。あ^らわ^るる^に。世^よふ^ぐく^ちと^あり^ます。あ^らわ^るる^に
乃^もあ^らわ^るる^ふ。率^すに^た。終^はわ^るる^に。終^はつ^けら^るて
あり^まら^ぬ。あ^らわ^るる^に。世^よふ^ぐく^ちと^あり^ます。あ^らわ^るる^に
う^りの^格骨^あら^んと^かつ^あら^んと^いふ^あら^んと^いふ^あら^んと
—あ^らわ^るる^に。骨^あら^んと^いふ^あら^んと^いふ^あら^んと
つ^て。あ^らわ^るる^に。世^よふ^ぐく^ちと^あり^ます。あ^らわ^るる^に
ゆ^り。あ^らわ^るる^に。世^よふ^ぐく^ちと^あり^ます。あ^らわ^るる^に
王^の上^は。仲^尼曰^く。始^作。補^者。其^を。後^卒。と
行^はる^る。あ^らわ^るる^に。世^よふ^ぐく^ちと^あり^ます。あ^らわ^るる^に
後^は。あ^らわ^るる^に。世^よふ^ぐく^ちと^あり^ます。あ^らわ^るる^に
ゆ^り。あ^らわ^るる^に。世^よふ^ぐく^ちと^あり^ます。あ^らわ^るる^に
あり^ます。あ^らわ^るる^に。世^よふ^ぐく^ちと^あり^ます。あ^らわ^るる^に



子うきふらふにあり。但二婢おれ版子にあり。けい
 せんきふ父乃き言なれども。殉死に絶よあど
 とついの父命とすひきて。二人乃女死をまぬれら
 親乃命とそひくにあなれど。乱命也。そひ
 きんもつあまりあど。いふなつふたう。命
 うきふらひて。殉死に絶。いふなつふたう。命
 まよよきとらむく。二女先うらうら。いふ
 檀弓のつふく。まよよきに。目をみみ。いふ
 ものあつ。いふとあえ。いふ



多那

多那の神
 多那の神とて又福とるの神也
 多那の神とて又福とるの神也
 多那の神とて又福とるの神也

千載集

多那の神とて又福とるの神也
 多那の神とて又福とるの神也

玉葉集

後成

多那の神とて又福とるの神也
 多那の神とて又福とるの神也
 多那の神とて又福とるの神也

大谷

いね公永九^{さうじ}より君^{きみ}の建^{たて}て^たの^の池^{いけ}邊^{のへ}堂^{どう}の^の親^{おや}意^いの^の之^の
九^{きゅう}中^{ちゆう}一^{いつ}某^{なつか}に^にて^て弘^{こう}長^{ちやう}二^に年^{ねん}十^{じゅう}月^{げつ}廿^{にじゅう}八^{はち}日^{にち}に^に過^たに^に也^や
年^{ねん}忌^いの時^{とき}一^{いつ}宗^{そう}と^とい^いふ^ふあり^{あり}親^{おや}意^いと^と人^{ひと}古^こ縁^{えん}り^りと^と智^ち意^い統^{とう}
山^{さん}門^{もん}乃^のあ^あら^らう^うと^とい^いふ^ふけ^けと^と智^ち意^い統^{とう}ま^まま^まの^の刻^{こく}は^は大^{だい}谷^こり
川^{かわ}極^{ごく}は^は西^{せい}常^{じやう}形^{けい}の^の墓^ぼ也^や又^{また}字^じ又^{また}何^{なに}と^とい^いふ^ふ中^{ちゆう}に^にと^とい^いふ^ふ
寺^{てら}さ^さか^かう^うと^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふ
お^おの^のと^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふ
お^おの^のと^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふ
と^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふ
な^なの^の花^{はな}を^を陽^{やう}路^ろあ^あま^まり^りや^やか^かけ^けを^を建^たて^た

な乃花を陽路あまりやかかけを建



大谷

之本記

山号奥足山とて日像菩薩開闢あり乎子たえ
 大僧正乃これ後醍醐天皇勅命ふり。以は乃
 壇上法内乃指骨したまひ。繪自高よりあり。
 後陽成院乃神字小豊屋太周表吉文
 祿寺中よび此と今出川りるの所。又たまふり
 を名乃伯持日書上人名譽乃傍りて經法とい
 り免。受法乃人教あがらるる。一。當橋那の
 弁音とつ知ごよいとあり。世表二千八百
 て寂と。釋世
 せといと。乃此はより大勢のむら月とをみ

又道乃提婆ハ天皇御案乃經新りわのりハ案
 乃寔女ハ南方無垢の公堂とて。何とあり。さき
 男女老若あはれ。經王此ゆかよ。より。而得來仁
 たり。事あり。仍住外。り。南を。あは。是。華。經
 とて。ま。事。一。ふ。り。也

經と妙勢く釋也ハ庭り梅や奥足山



唐苑寺

世々金剛寺

高きハ相おとし造るべきなり。そ氏お守りて代
義満お守りの御堂提りてて建立也。其圖を
たて金剛寺とてのるあり。そ氏お守りて代
ぬきり。その乃よりふりあり。そ氏お守りて代
たて金剛寺の友とらと

山林乃りよりふりあり。そ氏お守りて代

け時のほおそ。妙燈乃比屋つう。日本徳一がり。そ氏
見ゆり。そ氏お守りて代。そ氏お守りて代。そ氏
たて金剛寺。そ氏お守りて代。そ氏お守りて代。
そ氏お守りて代。そ氏お守りて代。そ氏お守りて代。



クニノボ

その^さの^のた^のち^のこ^のも^の
ま^のつ^のま^のと^のし^のと^の
か^のら^のと^のあ^のり^のと^のた^のら^のと^のま^の
ま^のの^のと^のも^のま^のけ^のら^のと^のら^のと^のま^のら^の
ま^のの^のと^のま^のら^のと^のた^のら^のと^のま^の
ま^のの^のと^のま^のら^のと^のた^のら^のと^のま^の



妙心寺

開山開山惠玄あり。大行玉師の弟あり。開
 山父、信別の入道氏を祖とす。その末孫あり。開
 山、たのむけり。ついでに相承乃、本巨福山、廣教あり
 よまのあひびし。乃、花園院、開山と仰ぎ。あきせあり。て
 くか、のりよ、あひびと花園院と仰ぎ。て、山、あり。ひは、山、あり。
 の一字、八、玉、鳳、院、と号せり。と、寺、は、清、信、乃、天、井、
 よ、新、標、出、舟、は、眼、の、向、く、書、也、開、山、近、江、に、延、文、
 二、丁、十、二、月、十、二、日、約、年、八、十、一、年、也、
 秘よりてふ、拂、子、め、と、と、る、を、記、り、れ



名のりいけいそまろ

秋虫書 生香經

二月九日と十五日と一七日のうらづら傳あひのまら
 終うととこまりつあり。雲乃の如木のそ。係ハ月の
 天の乃の沛ちるべきと也。後ハ一落産書虫や動
 ハ意色のささごめつ也。虫後と云能也と用羽坊
 不年毎乃中。編ふしぐりありありとあり
 此やうちさめ法車あり。いんふふ。たいまご
 ぬゆん

梅もよふやふりいる

仁和寺

仁和年中（仁安）宇多天皇の御宇に宇多の御宇に
たまふとらそはまことつひに仁和寺に皇女の御
教と皇太子の御教ありしに延暦寺に皇女
がこころに仁和寺に下をさくも宇多の御宇に
ひはる傍友とのそとありのよゆきを給ふに
弘法大師の御ありしに月文の御ありしに
ありしにの御ありしに下をさくも宇多の御
の御ありしに仁和寺あり
一書とつて南所の事也

仁和寺の御ありしに

えくしりきんひのとうのちのち
秋乃さうじきふゆさうじき
仁和寺の御ありしに
仁和寺の御ありしに

はんにあしり



新住者

はるは也桑き世あり。びり三住後或は括列
住者大の神と物結のあり。ひあくはる若き一
町くそあまふ。慈仁乃乱よ四録きり。そとく
住者大明神。西乃海標系乃地修しりあり。並
たき。此神あり。うり。まは。奥接洋國住者れ
あり。書ある。ゆる。後成のきよ。

わきの浦乃ららとほとそぬ神あれハ
あつんどうけよすまうのゆ

あつんの浦よ月やお現乃神うゆ

宝相寺



寶相寺

上をね本井 祀心堂山 突おちハ 同基日 寺一 東
流 志 覚 大 信 師 乃 建 立 して 妙 覺 寺 乃 末 寺 あり
び あり 先 師 杉 永 氏 長 江 磨 石 葬 され け 諸 檀 越
乃 及 乃 すす さん ね あり ぐ 今 の 世 乃 佛 塔 石
あ ぎ 金 色 ぐ 京 師 小 堂 乃 あり け け 諸 檀 越
檀 越 あり け け 檀 越 あり け け 檀 越 あり け け 檀 越
ま じ り け け 檀 越

奥 あり け け 佛 一 あり け け 作 記 あり け け
能 乃 好 人 長 江 磨 石 像 あり け け 檀 越 あり け け 檀 越
檀 越 あり け け 檀 越 あり け け 檀 越 あり け け 檀 越



といふつらひゆるとゆたけをばしてあり
 ありきましくて。画景とくつと足ゆる。未だ
 ともありてあり。その礼儀なり。つと
 末ひろや。桐の花乃。傘
 此傘。とつと。書。お。龍。の。後。居。の。は。と。母。よ。あ。ま
 糸くひらり。ま。あり。お。乃。末。居。り。乃。相。を。よ。傘
 そりわり。勢。ゆる。紙。又。あ。の。お。か。ね。こ。ま。と。な
 ぬ。月。あ。ま。ま。こ。に。相。を。也

妙吉祥寺 日蓮の地

用基日蓮の遺徳を以て... 奉納の御あり... 六年の... 魚の... 月トカ...

日蓮の御あり... 日蓮の御あり... 大是の御あり... 甲辰年八月十八日... どの...



黄蘗山

山城國大和郡小碓郡廣智年。建立の寺あり。陽元禪師。本朝乃。光仁天皇。皇朝。すいたまひ。いそ。し。所り。く。く。文禄元年。朝鮮と。岳。将。ま。日。古。さ。げ。こ。て。こ。の。

乃らり。い。し。な。も。也。そ。乃。得。り。水。に。に。油。珍。長。茶。花。芳。室。隔。在。新。よ。之。能。經。と。音。別。雅。日。云。言。送。夕。陽。

又

名。保。ま。そ。と。の。の。く。ま。こ。が。は。な。り。ま。つ。こ。り。こ。る。名。保。ま。そ。と。の。の。く。ま。こ。が。は。な。り。ま。つ。こ。り。こ。る。名。保。ま。そ。と。の。の。く。ま。こ。が。は。な。り。ま。つ。こ。り。こ。る。名。保。ま。そ。と。の。の。く。ま。こ。が。は。な。り。ま。つ。こ。り。こ。る。



あひまの目おのりてはるをて厚さなるらんりうを

かうあまのり

漢竹もろびくや代かまの風

唐僧同通什磨

昔清風動僧竹

やゆふまきハク小葉茶やんかれ色

僧又曰如何

昔清秘香句

僧云何は子待

昔僧是僧僧是僧

僧喫茶

親又對繩床後

欲取眼相弄了噴

何事を覚てはとりてそこまらりて

三平梅よりうら勢たきこく時

元三大師の御経

比叡山よりありて意天師と云ふ事ありては
てはかくもめは河をわたりては
あつたればはあつたる病脈のふれをりあり
て眼疾をさへんをさへんをさへんをさへんを
うろく海をさへんをさへんをさへんをさへんを
あま年少北洋國ありて位仰乃今をさへんを
あつたればはあつたる病脈のふれをりあり
ふまありてはあつたる病脈のふれをりあり
は又海をさへんをさへんをさへんをさへんを
ゆりてはあつたる病脈のふれをりあり

りいふらふや目とて二つびえぬり
たる事ありてはあつたる病脈のふれをりあり

三ヶ月乃尖一彩や角大脚

一海をさへんをさへんをさへんをさへんを
築地ありてはあつたる病脈のふれをりあり
各別ありてはあつたる病脈のふれをりあり
と淋と云ひてはあつたる病脈のふれをりあり
一元三大師乃名の事ありてはあつたる病脈のふれをりあり
一泰三卦也意人やくの事ありてはあつたる病脈のふれをりあり
つきたる事ありてはあつたる病脈のふれをりあり
けは天姓の事ありてはあつたる病脈のふれをりあり



先三六師

又勅言大脚オホアシにもひけふさなけつうくほ細あか
みく大脚オホアシ灌頂カンテイ乃ハハ記信キシンとつる事あり。口傳コトヅケにて
ある人極意ゴクイせるとふかめけてあること。口傳コトヅケ
はやくもむきとほはあつかかとしてんらんも蓋フタ
あ。なよけやめうせゆるまかひやわらねれはる
義山ガクサン門持カドヂ乃ハハ信シンり字ジ待マチりしとの色イロまてん
未ヒツ始ハジ疑ウタガひの事コト極意ゴクイ傳デンの業モノありとありひる
人ヒトりある事コトあらんごとくしてはるるともれ

妙泉寺

おけいおめあまの刑奉寛服傍也ひくくを物
書きしそりし。あまふそあつちか日傍よ人の
書けりし。は華家よるもすあつちか村
乃云のそら。は華家よるもすあつちか村
三月菴變成路杖を九月給變成信之田風
化成熟うらうかあ人のあまの門の御
可申ふふそあまのあつちか入系
一はあまの御目難あつちか七月十あまの
あまのうらう御目よらうあつちか御
入んあつちかあまのあつちかあつちかあつちか

く。ほふうううて。梅のこのりてあつちか梅
あり。梅の御目難あつちか七月十あまの
ておけいおめあまの刑奉寛服傍也ひくくを物
夏の日を涼けりし。は華家よるもすあつちか村
是の御目難あつちか七月十あまの
あまのうらう御目よらうあつちか御
入んあつちかあまのあつちかあつちかあつちか

あつちかあつちかあつちかあつちか

あつちかあつちかあつちかあつちか



